

420 チューニングガイド

for Super Spar M7 or Proctor Cumulus



NORTH SAILS

株式会社ノースセイル・ジャパン
info@jp.northsails.com
http://www.jp.northsails.com

TEL 045-770-5666
FAX 045-773-5222

Base Setting

マストレーキ	6110 ±10 mm
プリバンド	50mm-55mm for Base Setting
サイドテンション	31 - 31.5 Loose black gauge (くさび無しの状態) with 2.5mm 1x7 hard wire
マストステップ	2820 - 2830mm (マストグループ後端から、ポート後縁まで)

Base Setting

	1-4 kt	5-9 kt	10-14 kt	14-17 kt	17-22 kt
シュラウドピンポジション	1		2	3	4
マストレーキ	6110 ±10 mm		6070 ±10 mm	6000 - 6040 mm	5970 - 6010 mm
プリバンド	50 - 55 mm		50 - 55 mm	55 - 60 mm	60 - 65 mm
サイドテンション	31.0 - 31.5			28 - 31	
くさび(5mm)	0(ニュートラルの状態)		ニュートラルから1 - 2		
ジブタックポジション	横しわを入れる		若干横しわ バンゴオンでスムーズに	しっかりテンションを 入れる	強く引く
アウトホール タック部で15 mm スペース	バンドから15 mm			バンドから5-10 mm	バンドから0-5 mm

* くさびの厚さ 5mm

プリバンド量

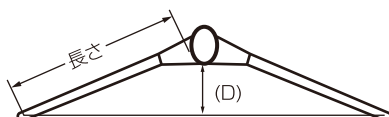
適正なプリバンド量は体重特にクルーの体重、身長、マストそのものの硬さにより変わります。体重の重いチームは少ない傾向、軽いチーム多い傾向にあります。

スプレッダー長さ

合計体重 110Kg を基準にして、480cm の長さを標準としてください。計り方はマストの側面からサイドステーの位置までです。プリバンドと同じく体重の明らかなおもいチームは長め (+15-20mm) かなり軽量のチームは短め (-15-20mm) にすると、強風での走りがよくなります。

ディフレクション

上記表中のプリバンドの数値になるように調整します。指定されたマストステップにマストを立てた場合、480mm のスプレッダーでディフレクション (下記イラスト中の (D)) はおおよそ、160~170mm になるはずですが。



適切なマストのセッティングとトリムの例

ブライドル

ブームの位置は上り角度に大きな影響があって、基本的にはオーバーパワーのコンディションでない限りブームは艇のセンターに持ってくるのが、角度を取るために重要です。420クラスでは、ブライダルの長さを調整して、できるだけブームを艇体の中央に持ってくるのが大切です。写真のようにブロックツーブロック(写真Aの状態になるように調整することでブームをセンター付近にセットできますが、この高さは風速によって異なります。そのため、2段階の高さをあらかじめ決めておいて、風速によって高さを選ぶ方法を薦めます。下記の点を留意してください。

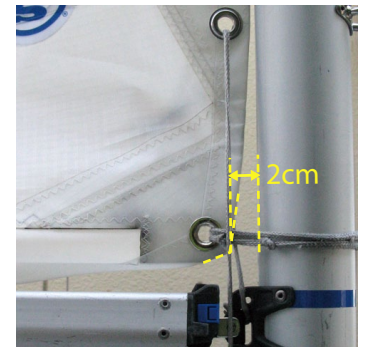
1. この高さは10ノット以下(ブームバングを使用しない風域)で調整する。
2. ほぼ10ノット付近(フルパワー)で、メインシートのテンションは最大になり、そのためブームの位置はもっとも低くなる。
3. 逆に風速が下がるほど、メインシートのテンションが緩みブームは高くなる。
4. したがって、およそ10ノットの風速で、もっとも低い位置を一箇所決定し、左右のロープの長さが同じであることを確認してブライダルロープのクリートにマーキングする。
5. 次にクルーがとらっぴーズに乗る手前の風域(5-6ノット)の風域で、メインシートがブロックツーブロック(数センチメインシートを引きこめるマージンは残しておく)の状態になる高さを決め、ここでマーキングする。
6. この2段階の長さによるブライドルの高さを、そのときのコンディションによって使い分ける。もちろん3段階にしてもよいです。ブライドルの高さはリーチが正しくトリムできているという前提で、高ければ高いほどブームがセンターに近くなることを頭に入れておいてください。上り角度をとるために重要なポイントです。



<写真A> ブロックツーブロック

アウトホール

アウトホールはセールの下部の深さをコントロールするだけでなく、ボートのヘルムに大きな影響を与えます。チューニング表を参考に風速に応じて正しくセットしてください。注意が必要な点は、タック側のスペースを位置も同じに(2cm空ける、写真B参照)しておくことです。アウトホールを引いたり、緩めたりすると、タックのスペースは変わるので、注意が必要です。ブラックバンド付近に1cmごとに3cmまでマーキングをするとよいでしょう。基本的に0-14ノット付近までは、同じセットをしますが10ノット以下で特に波が悪いときなどは少し緩くセットします。



<写真B> タックコーナーとマスト後面との距離を20mmに

カニンガム

ボートが明らかにオーバーパワーになりブームが常にセンターから外に出てから、マストの風速の増加に従い、バンドが増えるに連れて強く引いていきます。ルール上ブロックでテークルを組むことができないので、強風下では、かなりの力が必要です。ロープのエンドにポーラインで輪を作って、その輪に足を入れて、足で踏み込んでテンションを入れると引きやすいでしょう。

ジブ トリム

420のクラスルールではジブシートのフェアリードの位置が一箇所に固定されており動かすことが許されません。しかも取り付け位置が適切な位置よりも外側にあり、これがジブのセッティングとトリムを複雑にしています。

420のジブのセールに対するリードアングル(通常これは、ジブリーダーやバーバーホーラーといった艦装でコントロールする)は、ジブのホイストの高さ(ピークロープの調整)、マストレーキ、ジブのウインドワードシーティング(風上側のシートの調整)によって決まり、ウインドワードシーティングはジブを内側へ引き込むための手段でもあります。

ウインドワードシーティングをすると、ジブのリードアングルはよりクリューを下に引くように(ジブリーダーを前に動かすように)、同時にクリューの位置が内側に入るように働きます。2ノット以下の微風、25ノット以上の強風以外は常にウインドワードシーティングをするのがよいでしょう。ノースセールジャパンデザインでスタンダードの仕様となっているスプレッターウインドから見通せるトップのリーチのスプレッターに対する位置がシートトリムの助けになるはずです。

ピークロープの固定はベースセッティングにおいて、写真Cを参考に8ノット付近の風で適切にトリムした際、フットのデッキに最も近い部分がちょうどデッキに触れるところに固定します。(写真D)



<写真D> ベースセッティング時の、適切なフットとクリューの高さ



<写真C> ウインドワードシーティングによって正しくトリムされたジブのリーチ形状